

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

今日から8月、毎日真夏の強い陽射しが容赦なく降り注ぎ、早くも暑さのピークが過ぎればと思う毎日だ。今日から1週間は「水の週間」だ。水道蛇口を開

栓すると安全な水が飲める日本の素晴らしい環境を維持していく責任がある。

近年国際状況が悪化する中で、安全神話に頼った水管理は根本から考え直す状況だ。水源管理、貯水池管理の現状をまずは把握すべきだ。無人の施設で簡易な施設では、本間に安全な生活飲料が提供できない状況などの認識が求められている。最悪な場合、健康に害する薬物が混入されれば、管理者の責任追及だけに止まらず経済に大打撃を与えることは容易に判断される。水道事業を担う関係者

が、地域経済を担う大切な業務を行っている自覚が求められている。

白馬の水道水が素晴らしいと体験した場面があった。長野オリンピック冬季競技大会の大会前国際競技大会と位置づけされたアルペンスキー996F1 Sワールドカップ白馬大会の際、初めてワールドカップルールを学んだ時だ。世界各地を転戦するため多くのルールが定められていた。私の担当したスポンサー確保も未経験のため、苦難の連続だった。

「水」の安全は、地域経済存続の為に大切な責務だ

た。スポンサーからの協賛金を提供していた。だが白馬にだけスポンサーメリットの露出は他の外国でのレース現場を知らないスタッフには未知の世界だった。だが知らないことで新たな取り組みができ、国際ス

キー連盟のスタッフから高い評価をいただいた事も記憶に新しい。そして飲料について

十分な量を提供することだった。だが白馬に滞在した選手たちは、提供した飲料ボトルを飲まずに空になったボトルに水道水を満たして美味しく飲んだ。選手に尋ねると「世界各地で水道水を満たして美味しく飲んだ。選手に尋ねると「世界各地で水道水を満たして美味しく飲んだ。選手に尋ねると」

が、白馬の水道水はおいしくて冷えていて水分補給には最高」との声だった。確かに私も海外では水道水は絶対飲まないようにしている。この水道水で調理した料理はとも美味しかったとの印象は、

オリンピック後の白馬のインバウンド事業への、心強いエールだったのだと心に残っている。改めて「水」を守

る意識を高めてほしいものだ。
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



少雨が続く、現れる雲の峰や雄大積雲に降雨を期待する毎日だ